

防災のプロに学ぶ！「もしも」に備える防災教室

益田市都茂公民館

1 都茂地区の概要

(1)人口と世帯数等

人口 967 人 世帯数 490 世帯

高齢化率 50.1%

自治会数 12 自治会

主な産業は、柚子の生産、加工品の販売、工業用ゴム製品工場ほか。

(2)公的な施設

町内には、都茂保育所、都茂小学校、美都中学校、美都町学校給食共同調理場所、美都総合支所、秦記念館のほか、デイサービスセンター、グループホームなどの福祉施設がある。

(3)歴史、偉人、芸能

操業期間 1100 年を超える、非常に古く歴史のある「都茂丸山鉱山」(採銅)跡地がある。美都町山本の「大年ノ元遺跡」(中世の製錬遺跡)の発見により、益田川河口の「中須東原遺跡」(中世の港湾遺跡)等との間には、交易に伴い深い関係があったと考えられている。鉱山は昭和 62 年閉山まで地域の主要産業であった。

また、ドイツのパウル・エールリヒ博士と共に当時難病であった梅毒の特効薬、サルヴァルサンを発見した細菌学者、秦 佐八郎博士は都茂地区出身者である。現在、秦博士の生家のそばには「秦記念館」があり、資料が一般公開されている。

芸能分野では「石見神楽」が盛んで、地区の文化祭や祭りには欠かせない伝統芸能となっている。

2 事業の趣旨

平成 28 年の鳥取県中部地震により、益田市による都茂地域の防災・避難訓練が中止となった。その際地域住民から「このままで終わるのはもったいない、昭和 58 年に益田を襲った水害のことも、これからの世代に伝えていきたい」との声が上がった。このことから、都茂地域には「防災」と「地域の大人が子ども達とかかわり、伝える場」が必要と考えた。しかし、都茂地区全体で大きな避難訓練は難しいため、実施希望のあった自治会単位で防災訓練を実施することとなった。

(1)取り組み目標

1、人づくり

特定の人をリーダーや役員にするのではなく、一人ひとりが「自分はどうしたらいいのか」を考え、行動する力を身につける。

2、近助の精神

普段からさりげなく見守り、困ったときは「お互い様」で助けあう。思いやりの精神を思い出し、育むきっかけにする。

3、継続・広がり

単発で終わらず、活動の継続と広がりを持たせる。(訓練の内容を難しくしない、必ず体験してもらう、お楽しみ要素を入れる)

3 具体的な取組内容

1、第 1 部

・避難訓練

2、第 2 部

・防災講演会

・心肺蘇生法訓練

・炊き出し訓練

・消火訓練

4 評価と成果

(1) 避難訓練

実際に避難し、参加者同士で反省会を行うことで積極的な意見交換ができた。



(公民館へ避難、反省会時の様子)

(2) 防災講演会

NPO法人防災支援センターの防災士、桂木正則さんに、災害が起こった際の避難方法や日頃から備えることの大切さを、参加者と意見交換しながら学ぶことができた。

防
災
講
演
会



(3) 心肺蘇生法講習

消防署の職員から心配蘇生法の指導を受け、命の尊さについて再確認できた。



消
防
士
に
指
導
を
受
け
な
が
ら

(4) 炊き出し訓練

耐熱のビニール袋（ハイゼックス）を使用してご飯を炊いた。一度に沢山作れ、手を汚さずに食べることができることから、家でも作ってみたいとの声があがった。



(5) 消火訓練

最近では水消火器を使った訓練が多いが、本物の消火器を使って実際に燃えている火を消す体験は、参加者から歓声上がるほど盛り上がり、印象深い訓練となった。



消火訓練

(6) その他

非常食、段ボールベッド、簡易トイレの展示を行った。



(7) お楽しみ

耐熱煉瓦を組んだだけの「簡易かまど」でピザ作り。固定しないので場所が変わっても活用でき、参加者に好評を得た。



耐
熱
煉
瓦
の
簡
易
か
ま
ど

5 今後の課題と見通し

(1) 防災訓練を実施した自治会の継続

- ・防災訓練の継続実施

(2) 他地域（自治会）での取組実施

- ・自治会の現状考慮した防災活動を

(3) 地域活動や行事に防災を絡める

- ・炊き出しの実施
 - ・耐火煉瓦の簡易かまどの活用
 - ・地区運動会での防災を意識した種目
- (文責：都茂公民館主事 河野美也子)